

☆登山とハイキングの
普及と向上に全力をあげよう
☆力をあわせ何としても
300名会員を回復しよう

ろうさんKAGAWA 県連盟だより

香川県勤労者山岳連盟
No.52-10 2019.1.1
高松市松縄町1005-4
電話：087-865-7521

力を合わせ飛躍の年に

香川県勤労者山岳連盟 会長 阿部 哲也

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新年の決意としましては、まずは、県連盟会員300名の回復です。

各会が会員拡大目標を持ち、県連盟と一丸になって3年計画で取組み、今年度が2年目となっています。各会が前向きに取組み、県連盟でも登山学校受講者の勧誘、ホームページ(HP)やブログ、パンフレット配布一般の登山者に県連盟や各会の存在をアピールして、会員拡大を推し進めています。新入会員はある程度見込まれ、足掛かりは出来たものの同数の退会する会員があり、一進一退で衰退は無くなったものの目標を捕捉するまでには至りません。

このことは、会員拡大ともに各会が会員のニーズに応えられる魅力ある会作りと運営をする必要であると思いで「県連だより」を発行し、毎



月各会の活動内容を掲載するなど、啓発活動にも取り組んでいます。

今年は、会員拡大3カ年計画の最終年度になります。様々な会員拡大に向けた方策を実施し、各会と県連盟が一丸となって、300名の目標を達成したいと思います。各会の皆様のご協力をお願いします。

次に、讃岐山脈ロングトレイルの取組みです。昨年度から「讃岐山脈ロングトレイル」を設営し、県連盟が主体 となってコースガイドをまとめ、歩いてもらう取組みを進めています。現在、各会にコースを歩いて状況を確認してもらっており、県連盟が主体 となってコースガイドをまとめるための実行委員会を立ち上げています。

今後は、コースガイドをまとめて、県連HPやパンフレット等によりその都度紹介し、県連盟や各会の取組み・登山活動状況を積極的にマスコミ取材や自治体にコース整備等を働きかけて、協力要請していくことで、讃岐山脈ロングトレイルの認知度を高めていきたいと考えています。

これらの活動を通じて、外部の登山者・ハイカーに県連盟や各会を知ってもらい、入会案内することにより会員拡大に繋がる一助となればと考え、各会の更なる協力を呼びかけている次第です。

日本勤労者山岳連盟 第17回全国登山研究集会に参加して《その2》

11月23日・24日新城市モリトピア愛知で開かれた
労山全国登山研究集会⑩に参加しての感想です。

☆労山趣意書の内容をみんなのものに

「理念を失った組織は必ず衰退する」が世の常です。1978年2月に制定された「日本勤労者山岳連盟趣意書」に立ち返り、常に活動の指針にすることが求められています。そのためには、趣意書の内容を噛み砕いて、みんなのモノにすることが大切です。

趣意書の内容は4本柱になっています。①「権利としての登山」、②海外を含む「登山の多様な発展」③「遭難事故の防止」、④「自然を守る」です。

日本勤労者山岳連盟は1963年に設立されましたが、その当時からの運動の核心は「権利としての登山」でした。「官製」や「社製」でなく、勤労者自らの要求にもとづく、自ら自身のための文化・スポーツ＝ハイキング・登山運動です。

趣味の水準に留まらず、文化・スポーツ活動の一環になるよう活動水準を引き上げましょう。組織部：山下



☆登山趣意書の内容を噛み砕き、みんなのものに



①「権利としての登山」

日本勤労者山岳連盟結成の1960年代から追及してきた登山理念の核心＝「権利としての登山」は、それから50年経過した2011年(民主党時代の議員立法)に、「スポーツ基本法の前文」として法制化された。我々の主張の先駆性が輝いている。

スポーツ基本法 (2011年議員立法で成立) 1961年のスポーツ振興法を全面改正

前文 スポーツは、世界共通の人類の文化である。
スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり・・・
人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与するもの・・・
健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠・・・
スポーツの国際的な交流や貢献が、国際相互理解を促進し、国際平和に大きく貢献・・・

第三条 (国の責務)

第四条 (地方公共団体の責務)

第二十四条 (野外活動及びスポーツ・レクリエーション活動の普及奨励)

国及び地方公共団体は、心身の健全な発達、生きがいのある豊かな生活の実現のために行われるハイキング、サイクリング、キャンプ活動及びスポーツとして行われるレクリエーション活動を普及奨励するため、野外活動又はスポーツ・レクリエーション活動に係るスポーツ施設の整備、住民の交流の場となる行事の実施その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

大前提----平和でこそ楽しむことができる登山・ハイキング
「経済」「男女」とともに平等な社会でこそ、登山の多様な発展が望める

しかし現実には、労働環境や社会環境ともに逆に悪化している。権利の実現のためには、普段の「運動」と、「力」が必要である。国や自治体に「責務」を果たしてもらうためにも、「数こそ力」で頑張ることが決定的に重要。

②海外登山を含む「登山の多様な発展」 ハイキング、軽登山、縦走、沢登り、岩登り、冬山

③「遭難事故の防止」 基礎技術の習得 日常的なトレーニング 救急法 救助隊

④「自然を守る」 豊かな自然環境を守る クリーンハイク 携帯トイレ

県連拡大理事会⑨の報告

12月19日 善通寺にて 8会より19名参加

《会勢報告》 +2-2=252名

- ・五色 +1 (男31歳山の子紹介) -1
- ・善通寺 -1
- ・あけぼの +1 (女52歳クワイク)

《会員拡大3ヶ年計画の達成のために》

①第17回全国登山研究集会の報告

☆山下理事より報告(別紙) +阿部・前田

-----頑張っているハイキングクラブや山の会が多い-----

会独自のハイキングスクール、初級登山学校開催、県連主催の初級登山学校・中級登山学校を開催して会員を増やし、レベルアップを図る(岡山・京都他)。体験山行に積極的に取り組む(奈良)。

ホームページを通じて入会してくる人が非常に多い。ホームページの刷新、頻繁に更新を図る。

若者受けする編集や楽しい雰囲気の写真も多く取り入れて工夫(道央、名古屋)。お金を払ってHPをリニューアルした会もある(東三河)。

登山を総合的に発展させる努力



(名古屋)。国民の多様な登山要求に応じていく活動。バックカントリーやフリークライミング、ボルダーなど楽しんでいる方にも声をかける(道央)。



若者が入ってこないと会は活性化しない。山の会の敷居を低くして、広く宣伝して入会させ(チラシや名刺の活用)会員に体験させる努力を山の会は惜しんではならない。止めて行く人も多いが、残る人も多い(道央)。また、会の高齢化に伴い70代でも登山出来るよう企画を工夫して取り組む。

会運営では、会員が各部会に所属し事務局・遭難対策・教育部など会活動を支える部会に一関わり方の多い少ないはあるにせよ一何らかの形で会活動に参加する。会員の自主性を尊重し、会員の活動を自由に追求できるように、会は保障するよう努める(名古屋)。

2月に報告集が発行されるので、各会で購入して役員会で正面から論議して欲しい。

②300名回復3ヶ年計画の進行状況 山下理事

・総務省社会生活基本調査2016によると香川県の登山・ハイキング人口は、つり、ジョギングについて多い59千人。その1/4を入会対象者と推計すると、20~74歳人口の2.5%=1万5千名ほどと思われる。

・県連盟最高時の85年当時490名の内、山の会は201名から223名で横ばい、ハイキングクラブで289名から29名と大きく後退。大きな建物を建てるためには、しっかりした基礎が必要です。ハイキング層への働きかけを重視する。現ハイキングクラブの再建と、「山の会」でも多くのハイキング愛好者に働きかけを広めることがポイントになる。300名会員回復2年目目標である275名を達成すべく、全会が各会の総会目標を達成しましょう。

【各会の取組みについて】

☆高松労山……登山学校や普通の山でお試し山行を行うのは良い。ホームページを立ち上げたけど、中味が充実していないので改善が必要。

「お客さん会員」をなくして、専門部に入って活躍できるようにする。新会員は専門部に入って何をしたらいいのか解らない会員がほとんど

で、山行を通じて早く組織になじんでもらうよう先輩会員の努力が必要。

☆あけぼの……バス登山、クリーンハイク、写真展に参加された方、40名にハガキを送ってお試し山行の案内。

例会の一回は、教育遭対部がワンポイント学習を取り入れ。

新人には、担当者を付けて要求がどんなものかを聞いて、山行にさそっている。

☆さかいで……特定の会員同士で無届山行がある。

☆五色の峰……新しい若い会員が2名増えた。つながりで対象者を増やして行きたい。

☆善通寺……個人山行を励行しようとやってきたが、行く人は行くけど余りうまく行っていない。百名山に登ろうとか目標をもたないと……

会員は専門部会に所属して活動することになっているが、来ない人は来ない状況。

会の連絡先に、個人名・携帯番号を公表するのは抵抗感がある。

☆塩飽……会員拡大は進んでいないが、会のロゴマークと缶バッジを作成。2019年市民登山のバッジも作る。チラシは、楽しそうな写真を入れ固くなり過ぎないように編集して作成して活用する。会の名刺も作成中。ブログアップは、担当者を決めて早くアップするようにしている。

魅力ある山行を行う。山行部会に沢山来てもらって、会員に希望の山のアンケートを取って様々な山行を企画している。定例山行の参加も多く、例会には20数名集まって活気が出ている。質が下がっているの、考えていかないと。

☆山歩会……リーダーが少ない。後追いが多い。女性でリーダーになる人がないので今後の課題。

今年の遭難対策講習会のパンフレットは有効で良かった。

《行事予定・その他》

◎2019年度県連活動予定は1月理事会で論議

◎三月末でのヤフーブログの閉鎖に伴い、HP開設説明会の開催を計画。全国連盟から、HPデザイナーを呼んで開設説明会を2月頃の土曜日に計画する。



各会の山行一覧とこれからの山行予定 ◎例会山行 ☆個人山行

Table with columns for Association Name, Date, Mountain Name, CL, Participation, Date, Mountain Name, Date, Mountain Name. Rows include various hiking groups like '高松', '五色の峰', 'さかいで', '塩飽', '善通寺', 'あけぼの', '観', 'H', and '県連'.

一月行事

☆16日(水)19時半～ ☆ ☆

県連第10回理事会 高松 メディア委員会 讃岐山脈ロングトレイル実行委